# からこかぎ

第1~~7~~8号　平成 29年　5月22日（月）発行



唐古･鍵遺跡の保存と活用を支援する会
〒 636-0247　奈良県磯城郡田原本町阪手 233-1　唐古･鍵考古学ミュージアム内
℡ 090-9257-3688　Email：karakokagijimukyoku@swan.ocn.ne.jp


## 定期総会　会長あいさつ

今西和代

平成29年度の運営委員を代表して、ごあいさつをさせていただきます。

本会で決定された活動計画にのっとり、引き続き唐古・鍵遺跡の保存と活用に関わる支援事業の一層の充実を図っていきたいと思います。

とりわけ、遺跡公園の開園が1年後に迫ってきて、唐古・鍵考古学ミュージアムや文化財保存課さらには遺跡公園の活動の実施主体と考えられています「遺跡公園ボランティア」の方々への支援・サポートを積極的におこないたいと考えています。

また、昨年は土器の野焼きの見直しをおこないました。前号の会報でご報告いたしております縄文時代の開放型の野焼きと異なり、弥生時代におこなわれていた「覆い焼き」でございます。今年は、「土器炊飯」、「火熾し」、さらには「土器つくり」などの見直しを予定しています。具体的には、ものつくり教室での検討となりますが、弥生時代に近いやり方を復元したいと考えております。これらの検討は、来年度に開園されます遺跡公園での弥生文化情報の正確な発信にもつながるものと確信しています。

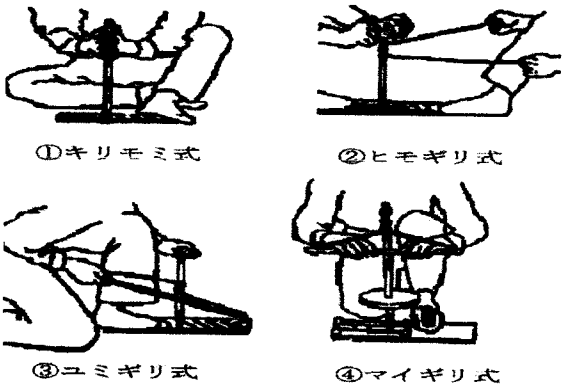
さらには、昨年度末に丹後半島の弥生遺跡を訪れました。たくさんの方々のご参加をいただき、喜んでいただけました。今年も必ず実施したいと考えています。訪問する場所や時期は未定ですが、新たに担当の運営委員を選任して検討をかさねることにしています。

最後に、昨年の重点目標にしています「次世代につながるノウハウの継承」のことですが、私たちの会も創立14年を迎えました。私は、何とか次世代の活動を担う会員の誕生を願っていまして、「重点事業」と位置づけ、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

以上、今年度の活動にあたり留意したいことを述べました。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、ご多忙のところありがとうございました。

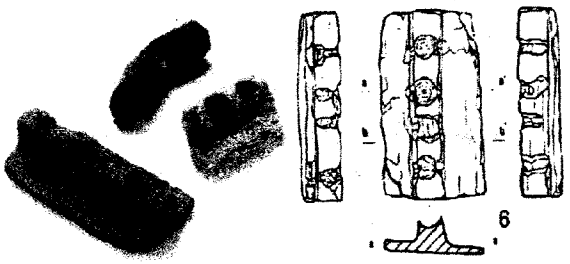
（次ページ「火鑽臼」　発火法　4方式図）



## 遺物紹介～火鑽臼

会報編集グループ

今回は、ミュージアム第2室入口そばに展示されている「火鑽臼（ヒキリウス）」を紹介します。展示遺物は、遺跡西地区の駐車場建設に伴う第13次調査で出土したものです。調査区(215㎡)からは、中期初頭から後期初頭にかけて掘削された南南西―北北東に併走する大溝5条が検出されていますが、そのうちの 後期の溝（ＳＤ－０２ 幅6.3m深さ1.2mの溝）から出土しています。溝からは、鞘入り石剣・ 弥生中期甕・ 緯打具などのミュージアム展示品が出土していますが、ほかにも箕・木製匙・着柄鋤・多量の炭化米・水差し形土器・短頸壷・建築材・木製容器などさまざまな生活痕跡を示す遺物が出土しており、火鑽臼もその一品です。




田原本町教育委員会「弥生遺産Ⅱ」　「第13次発掘報告書」

1　火鑽臼

展示されている火鑽臼(写真左下)は、通例「ヒキリ板」と呼ばれているもので、全長7.2cm・幅3.9cm・厚さ1.65cmの完形品で、ヤマグワを使用しています。また、頂部に円形の凹みがあり、その両端縁に溝があり、炭化した使用痕跡が認められます。一般に、ヒキリ板の材質は、針葉樹を中心にやや軟質の木片が利用され、スギ・ヒノキが多数を占めるといわれています。ヤマグワの出土例は、ヒキリギネにはありますが、ヒキリ板の使用は稀です。

なお、展示遺物には、木粉の火種を受ける台が付着していて、極めて稀有な出土例です。

ヒキリ板は、古くは昭和3年に三重県柚井貝塚からヒキリ板2点が出土し、昭和22年に静岡県登呂遺跡から3点のヒキリ板が出土して話題となり、その後は出土例がかなり増えています。以前に遺跡紹介に登場した滋賀県大中の湖南遺跡や大阪府安満遺跡や福岡県板付遺跡からも、ヒキリ板が出土しています。また、唐古・鍵遺跡では、第61次調査（写真右上 サルナシ・ 中期）第3次調査（写真右下　不明・後期）からも2点のヒキリ板が出土しています

2　発火法

ヒキリ板の利用ですが、ヒキリ板に垂直に立てた木片（ヒキリギネ）を回転摩擦させ発火させますが、その回転力を生み出す方法により前ページに表示しています４つの方式が想定されています。

①キリモミ式　②ヒモギリ式　③ユミギリ式　④マイギリ式です。

キリモミ式は、ヒキリギネを両手で揉む方法で、発火の初源と考えられます。ユミギリ式は、ヒモギリ式のヒモを弓に置き換えたもので、縄文時代前期の福井県鳥浜貝塚の小型弓状木製品（長さ30cm太さ1cm程度)が知られていますが、穿孔具とする意見もあります。マイギリ式は、ヒキリギネに付けたはずみ車の回転力を利用したものですが、江戸時代寛政年間の「名所図会」に記載されており、その頃に穿孔具のマイギリをヒントに考案されたものと考えられています。以後、伊勢神宮に見られるように神事の発火具として利用されてきたものです。

残念ながらヒキリ板のみの出土ですので、展示遺物からは、発火方式は特定できませんが、キリモミ式を基本にユミギリ式の可能性を含めて考えたいものです。キリモミ式は、熟練すると1分程度で発火するとの報告例があります。

今年度、「ものつくりグループ」では、火熾し技術の復元実験を行い、火熾し道具の再検討をする予定です。今年度のものつくりメンバーの検討を期待し、その成果報告を楽しみにしています。

# 第20回　弥生ウォークのご案内
## ー後期後半の弥生墳丘墓ー

井上　知章

第19回弥生ウォークは、馬見丘陵にある弥生後期後半の弥生墳丘墓を確認したいと思います。墳丘墓は、おもに盛土によって墓域を画し形成するものですが、終末期になると突出部が発達し、墳丘が大型化するなど古墳時代の前方後円墳につながる変容を遂げています。弥生時代後期後半から終末期の弥生墳丘墓は、奈良県では検出例は極端に少なく、数例しかありません。

なお、馬見丘陵は、６～70mの低丘陵で、その縁辺に葛下川、高田川が北流しています。

１　池田遺跡

最初に、池田遺跡を訪れます。遺跡からは、古墳築造以前の砂層から後期旧石器時代から弥生時代までの遺物が出土しています。特に、大量の石器類が出土しています。今回は、石器類が展示されている「二上山博物館」を訪れますので、石器類を確認したいと思います。

２　弥生墳丘墓

しかし、今回の中心テーマは、奈良盆地に数が少ない弥生墳丘墓の確認です。奈良盆地では、前期から方形周溝墓が出現しますが、他地域に比べて大型化しさらに四隅突出型などのように特殊化した弥生墳丘墓はみえません。その中で、今回訪れる広陵町黒石10号墓や上牧町久渡古墳群3号墳は、稀有な検出例といえます。簡単に2つの弥生墳丘墓を紹介します。

(1) 黒石10号墓

黒石10号墓は、標高76.5mの低丘陵にあります。周囲に幅1m深さ60cmの溝をめぐらせ、東側の中央部2mの溝が途切れ陸橋部となり、その部分の溝幅が外側に幅2.5mと広がる短いバチ型の「突出部」が確認できます。一方、墳丘部の各辺は10.4mで盛土がなされています。埋葬施設は、組み合わせ式木棺で、畿内第Ｖ様式土器が出土しています。奈良県では、数少ない後期後半の「突出部付方形墳丘墓」です。

(2) 上牧久渡古墳群3号墳

古墳群は、馬見東丘陵の南西端の標高72mの尾根上に位置しています。3号墳は、一辺15mの方墳とされていましたが、３基の組合式木棺の埋葬施設が検出され、棺内からは弥生後期の土器が出土して「弥生墳丘墓」と評価されています。注目したいのは、第1埋葬施設から画文帯環状乳神獣鏡、鉄製武器類（鉄剣・鉄鏃）が副葬されているところです。

３号墳の周辺には、二つの遺跡があります。

①　久渡遺跡

久渡古墳群1号墳下層に遺物包含層があり、溝状遺構も検出されています。時期は、弥生後期から終末期とみられ、奈良盆地には数少ない高地性集落と評価されています。

②　観音山銅鐸（上牧銅鐸）出土地

銅鐸の出土地は久渡古墳群と谷を挟んで100m程度の距離にあります。銅鐸は、外縁紐1式４区袈裟襷文で、弥生中期の制作とされています。久渡遺跡との関連を論じる意見がありますが、時間的には齟齬があるように思えます。

３　奈良盆地の弥生墳丘墓

終末期の弥生墳丘墓が重視されるのは、首長の形成と社会の階層分化の指標とされるところです。これまでの弥生ウォークで確認できたのは、盆地内では階層差が顕著でなく墳丘墓が余り発達していない点です。確かに、後期段階から、奈良盆地内では、唐古・鍵遺跡などの大型拠点集落は衰退しますが、墳墓にはあまり反映されていません。また、北九州や出雲・吉備・丹後地方のような首長墓の形成もみられません。今回は、数少ない弥生墳丘墓を確認し、そこから読み取れる社会の変化を考えてみたいと思います。

## 妻木晩田遺跡～森と海の王国

**弥生ウォーク世話人グループ**

今回は、吉野ヶ里遺跡の3倍の広さを有する妻木晩田（むきばんだ）遺跡を紹介します。遺跡範囲は170ha で、現在、152ha が国の史跡に指定されています。その大きさは国内最大級といえます。遺跡は、青銅器祭祀が終焉を迎える弥生時代中期後葉に始まり、後期後半には最盛期をむかえており、魏志倭人伝の倭人条に書かれている「国邑（クニ）」の1つと比定する意見もあります。

1　位置

遺跡は、鳥取県西部（米子市と西伯郡大山町）に所在し、伯耆富士と呼ばれる大仙の北麓にあり、孝霊山から北西に派生する標高90～120m(比高差100m）の晩田丘陵の尾根上に広がっています。北東側と西側には扇状地があり、その北側には淀江平野が広がりさらに北側には日本海が望めます。

2　集落域

居住域は、東西2km、南北1.5kmの範囲に広がり、①洞ノ原地区 ②仙谷地区 ③妻木新山地区 ④松尾頭地区（一部・小真石清水地区を含む）⑤妻木山地区⑥松尾城地区にわたり、竪穴住居395基、掘立柱建物502基が検出されています。竪穴住居には、10㎡程度の掘立柱建物と貯蔵穴が伴い柵列や溝により区画され、その区画範囲は、調査により1000㎡程度と想定されています。そのことは、一定規模の土地を占有し、収穫物の貯蔵・消費する基礎単位集団（血縁家族）が存在したことを示しています。更に、各地区は複数の群構成(3,000㎡程度)を有しており、同時並存している住居は、群単位で一時期2、3棟程度と見積もられ、最盛期には、最大で100程度の世帯が生活していたと考えられています。

3　鉄製品

遺跡からは、450点を超える鉄製品が出土していて、その内訳は棒状の鉄製品を中心に工具類が多く、農具・土木具が続きます。また、鉄製品をつくる素材鉄板もあり、鍛冶炉と考えられる竪穴住居の焼土面も検出されています。
注目したいのは、鉄製品が複数の居住単位、各地区にいきわたっている点です。これは、鉄製品を独占する群単位は存在せず、配布にあたっては平等な互酬関係が成立していたことを示しています。このことは、先述した集落構造にみられるように各世帯が独立性を有する一方、鉄製品の流通に共通の利害関係を有する共同体が構成されていたことがわかります。

近時、近畿を中心に「大規模集落は個別集落の集合体」とする見直し意見が出されていますが、妻木晩田遺跡は1つの集落（共同体）と評価して問題はないと思えます。

4　環濠

平坦な尾根の先端にある洞ノ原西地区では、集落形成期（後期前葉）の環濠（幅4～5mV字

断面）が検出されています。興味深いのは、その内部には居住痕跡がなく、単なる空間地域（直径60mの円形範囲）を囲っています。防御性や排水といった環濠機能と異なった「聖なる空間」といった祭祀機能が想定されています。周辺の遺跡にも同様の環濠が存在しています。

しかし、後期中葉になると、環濠の廃絶し居住域となっています。さらに後期後葉には丘陵全体に居住域が広がります。そのことから、後期中葉ごろには祭祀の形態が変わったものと考えられます。それは、次に述べる墓制の変化にも現れています。

5　墳丘墓

遺跡内最古の墓は、洞ノ原墳墓群の1号墓（四隅突出型墳丘墓）2号墓（方形貼石墳丘墓）で、墳墓群は、1・2号墓を取り巻くように後期前葉から中葉にかけて小型の墳丘墓が配置されています。この時期は、格差がみえない世帯共同体の墓（家族墓）であったと考えられます。

しかし、後期中葉以降の仙谷墳墓群などでは、住居址と比較すると墳丘墓の数が減少し、さらに後期後葉の松尾頭墳墓群1号墓、2号墓（木棺の底に薄い砂を撒く。鉄器を折り曲げ副葬するなど新たな葬送儀礼が出現）にみられるように数人に限られるようになります。それは、集団墓から特定集団墓に変化してきたことを示していて、共同体内部の階層分化が進行していたことが分かります。しかし、丹後半島の赤坂今井墳丘墓のような特定個人墓（首長墓）は、現在のところ確認されていません。墳丘墓の推移をみると、遺跡は、強力な首長権限が形成されない段階の遺跡であったということがいえます。

6　遺物

遺物は、土器、石器（農耕具、狩猟具、調理具など）に加え、多量の鉄器が出土しています。また、筋砥石、管玉、管玉未成品など玉つくり関連遺物が多く出土していることから日本海交易の一翼を担っていた点は丹後半島と同じと思われます。ただし、竪穴住居跡から炭化したコメ、アワ、キビ、マメ類に加えコナラ属、ブドウ属などの採取種実などが出土し、眼下に広がる扇状地での稲作に加え、丘陵部の森林資源、海洋資源などの採取が集落を維持する生業であったことがわかります。その点は、狭隘な地形のため稲作の生産性に依存できなかった丹後の弥生遺跡との違いであったと思います。

## 丹後半島のバス旅行に参加して

宮川　真由美

1　出 発

穏やかな天候に恵まれ、定刻の8時00分に田原本駅西口駐車場を出発し、京都縦貫自動車道を一路丹後半島に向かいました。はじめに会長の今西さんの挨拶と、今回旅行を企画・運営された山本さんからコースの紹介があり、参加者は、大型バス定員いっぱいの40名とのことで、楽しいバス旅行が期待できました。

早速、今西さんと大森さんから温かいコーヒーが振舞われるなか、日本海側の遺跡のビデオが写しだされました。後で聞けば、そのビデオは、参加された川崎市の佐藤さんに提供いただいたとのことでした。今回訪れる赤坂今井墳丘墓などを興味深く見ました。

高速道路を下りる直前に、井上さんから、配布された丹後半島・弥生遺跡の資料の説明がありました。丹後の弥生遺跡と奈良盆地の弥生遺跡は全く様相を異にしていて、その理由の1つとして丹後半島の地勢をあげていました。丹後半島は、流域長が短い小河川のため扇状地や沖積地が狭い一方潟湖が発達し、その結果水田耕作に依存できず、玉や鉄製品の制作など交換価値を重視するような生業となされていたとのことでした。また、今回の訪問遺跡から、丹後半島の弥生遺跡の集落と墓制の変遷をみることができるとの紹介がありさらに興味がわきました。

2　丹後郷土資料館

京丹後市に入るとご案内をしてくださる宮津市教育委員会の河森一浩先生が乗車されました。唐古・鍵考古学ミュージアムで学芸員として勤務されていたのでとても懐かしく思いました。

最初に訪れた丹後郷土資料館では、河森先生から展示品の説明がありました。大風呂南1号墓のガラス釧と中国新の貨泉と中国戦国時代の明刀銭には感動しました。古い時代から大陸との交流があったことが推定され、「海の民」の存在がうかがえました。

3　集 落

最初に前期末の扇谷遺跡に行きました。居住に不向きな尾根上に位置する環濠集落です。唐古・鍵遺跡は、未だ分立化した小規模集落の時期に相当します。環濠埋土から、近畿最古の板状鉄斧などの鉄製品や玉製品やガラスが出土し、小規模の低温鉄生産を想定する意見もあるとか、奈良盆地との違いを最初に見せられました。

次いで、途中が丘遺跡に行きました。やはり段丘上に位置し、環濠が8本検出され、その規模から前期から後期に至る集落の盛衰が確認でき、多数の柱穴と土坑の検出がそれを裏付けていました。遺跡からは、鉄製品、ガラス製品、玉製品が出土していて、丹後半島内の各集落での生産を想定でき、それら製品の遠距離交易を裏付けるものと思えました。

今回のバス旅行では、前期後半から中期後半までの集落遺跡を訪れました。後期段階は、副葬品を有する大型台状墓が出現していますが、相当する集落は未発見とのことで、今後の調査に期待したいと思いました。

4　墓域

扇谷遺跡から遠望した七尾遺跡は、前期末葉の2基の方形台状墓（家族墓）でした。

まず訪れたのは、後期末葉の近畿最大の赤坂今井墳丘墓（盟主墳）、後期後葉の2基の大風呂南墳丘墓、（特定個人墓）そして最後は後期初頭の39の埋葬施設を有する6基の台状墓の三坂墳丘墓（集団墓）にいきました。そこからは、車内で説明があったとおり、格差がみえない家族墓から群構成の集団墓を経由して特定集団墓から特定個人墓に至る丹後半島の墓制が確認できました。それは、墳丘規模や埋葬施設の構成や副葬品の多寡などを基準に分類整理されたもので、訪れた墳墓ごとに説明がありました。いずれも、遺跡概要を河森先生、遺構図面や遺物写真もとに井上さんが説明するという手順で進行し、事前に勉強会（3月18日）が開催されていたこともありよくわかりました。

5　見学を終えて

帰りのバスの中では、短時間でしたが奈良盆地と違った遺跡を訪れた余韻が残っていて、いろいろな所で話の輪が広がりました。私は、終末期の赤坂今井墳丘墓が印象に残りました。桜井市の石塚古墳（墳丘墓）と同時期のものと思いますが、墳丘規模や埋葬施設さらには副葬品などが古墳と弥生墳丘墓との相違点であることがわかりました。

次回の弥生ウォークは、上牧町の弥生墳丘墓を訪れるとのことです。さらに、弥生墳丘墓を知りたいと思いました。

（編集委員）
東　治雄　井上知章　植田洋高　大森初美
谷口敬子　花坂志郎　福島道昭　藤原隆雄
万徳順一　宮川真由美

## 平成29年度　総合的な学習の年間予定表(6年)　　平成29年4月23日時点

| 1学期 | | | | | 予備日 | 2学期 | | | | | 予備日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 28日(金) | 9:10～11:50 | 北小 | 見学／勾玉づくり | | 10月 | 6日(金) | 8:50～11:30 | 東小 | 土器づくり | |
| 5月 | 8日(月) | 8:50～10:25 | 平野小 | 勾玉づくり | | 10月 | 13日(金) | 8:50～11:30 | 南小 | 土器づくり | |
| 5月 | 23日(火) | 9:10～11:45 | 田原本小 | 見学 | | 10月 | 26日(木) | 8:50～9:35<br>13:45～14:30 | 北小 | 土器野焼き(遺跡) | 11/2(木) |
| 5月 | 26日(金) | 8:50～10:25 | 北小 | 火熾し、炊飯、脱穀 | 6/2(金) | 10月 | 27日(金) | 8:50～10:25 | 南小 | 火熾し、炊飯 | 11/1(水) |
| 5月 | 30日(火) | 8:50～10:25<br>10:45～12:20 | 田小 | 勾玉づくり | | 10月 | 31日(火) | 8:50～9:35、<br>13:50～14:35 | 東小 | 土器野焼き | 11/9(木) |
| 6月 | 8日(木) | 8:50～10:25 | 平野小 | 火熾し、炊飯 | 6/9(金) | 11月 | 7日(火) | 8:50～9:35、<br>13:50～14:35 | 平野小 | 土器野焼き(遺跡) | 11/10(金) |
| 6月 | 12日(月) | 8:50～12:20<br>8:50～12:20 | 田原本小 | 土器づくり | | 11月 | 14日(火) | | 南小 | 土器野焼き(遺跡) | 11/16(木) |
| 6月 | 13日(火) | 8:50～12:20<br>8:50～12:20 | 田原本小 | 土器づくり | | 11月 | 17日(金) | 8:50～10:25 | 東小 | 火熾し、炊飯 | 11/24(金) |
| 6月 | 27日(火) | 8:50～12:20 | 田原本小 | 火熾し、炊飯 | 6/28(水) | | | | | | |
| 6月 | 29日(木) | 8:50～11:30 | 北小 | 土器づくり | | 未定 | | | 田原本小 | 土器野焼き(遺跡) | |
| 6月 | 30日(金) | 8:50～11:30 | 平野小 | 土器づくり | | | | | | | |
| 7月 | 7日(金) | 9:10～11:45 | 東小 | 見学／勾玉づくり | | 総合的な学習の成果展示会 | | 平成30年1月26日(金)～1月31日(水)　青垣生涯学習センタ | | | |
| 7月 | 14日(金) | 8:50～10:25 | 南小 | 勾玉づくり | | | | 【準備　1月24日(水)・1月25日(木)、片付け　1月31日(水)】 | | | |

## 2017年ものつくり予定表　　(4月30日作成)

| | 日　付 | 内　　容 | | 日　付 | 内　　容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 04月12日 | 天平祭・郡山市場まが玉つくり制作 | 19 | 10月25日 | 天平祭・まが玉つくり制作 |
| 2 | 04月26日 | 天平祭・郡山市場まが玉つくり | 20 | 11月03日 | 天平祭勾玉つくり |
| 3 | 05月03日 | 天平祭・まが玉つくり | | 11月04日 | 天平祭勾玉つくり・町文化祭 |
| 4 | 05月04日 | 天平祭・まが玉つくり | 22 | 11月05日 | 天平祭勾玉つくり |
| 5 | 05月05日 | 天平祭・まが玉つくり | 23 | 11月08日 | 稲東ハサカケ |
| 6 | 05月10日 | お休み | 24 | 11月22日 | 青銅器溶融 |
| 7 | 05月14日 | 郡山市場・まが玉つくり | 25 | 12月13日 | 脱穀・精米(約3kg) |
| 8 | 05月24日 | 環濠田植え箇所整備 | 26 | 12月20日 | 遺跡清掃 |
| 9 | 06月14日 | 田植え | 27 | 12月27日 | 注連縄作り |
| 10 | 06月28日 | 古代体験の改良 | 28 | 01月10日 | 新年顔合わせ・映写会 |
| 11 | 07月12日 | 藍染め・鋳型内型真土試作 | 29 | 01月24日 | 25日に振替 |
| 12 | 07月26日 | 子ども夏休み体験・研修 | 30 | 1月25日(木) | 小学校展示会場・準備 |
| 13 | 08月09日 | 子ども夏休み体験補助ボランティア参加 | 31 | 1月27日～<br>2月1日 | 小学校展示受付ボランティア |
| 14 | 08月19日 | 粘土作り | 32 | 02月01日 | 小学校展示会場・片付け |
| 15 | 8月22日～<br>8月25日 | 学校支援土器つくり実習　・鋳型製作 | 33 | 02月28日 | 未定 |
| 16 | 09月13日 | 未定 | 34 | 03月14日 | こもつくり |
| 17 | 09月27日 | 団栗採取・マテバシー | 35 | 03月28日 | 未定 |
| 18 | 10月11日 | 穂苅体験・覆い焼き | | | |

### 今年の重点目標

| | |
|---|---|
| まが玉 | イベント参加と制作体制つくり |
| 稲作 | 古代米育成 |
| 藍染 | 染色の向上 |
| 古代技術の探求 | 火おこし方法・弓錐方式、火種受けもぐさ・まこ他 |
| | 炊飯方法、直置き加熱・おかゆ・湯切り他 |
| 見学ツアー | 兵庫県立考古博物館・淡路島・吉備等が候補地 |

各　　位

平　成　２９年　５月　２０日
唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会

# 第２０回　弥生ウォークのご案内

１．対象遺跡　：　黒石１０号墓と上牧久渡３号墳（墳丘墓）

２．日程等　：　現地遺跡見学会
　日　　時：　平成２９年６月１０日（土）午前１０時００分～午後２時３０分頃
　集合場所：　近鉄大阪線築山駅　出口集合
　案　　内：　弥生ウォーク世話役
　持ち物　：　弁当、飲み物、雨具、筆記具等
　進　行　：
　　○　案内は、概要説明を含め、弥生ウォーク世話役がおこないます。
　　○　雨天実施（荒天順延＝午前７時に気象警報発令時）。
　　問い合わせは、事務局に電話照会願います。

３．参加対象者　：　支援隊会員、ミュージアムガイドおよび参加希望の方

４．申し込み　：　事前参加申込は不要です。当日、集合場所にお越しください。

５．会　費　：　会員無料。非会員の方は、資料代３００円をお願いいたします。

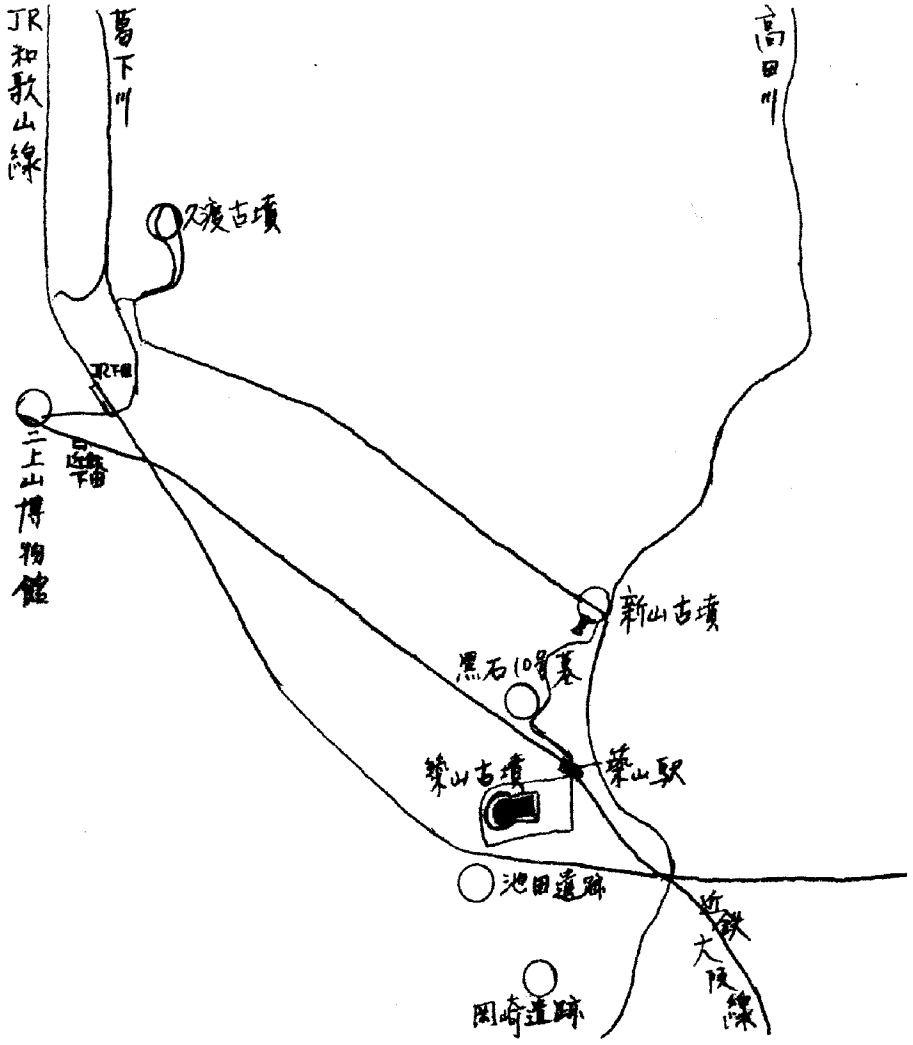
６．現地見学会コース：　全行程　約８ｋｍ

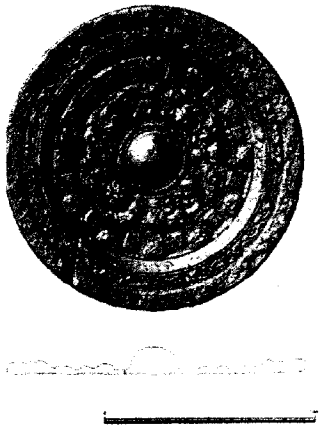
築山駅集合→ 築山古墳→ 池田遺跡→ （岡崎遺跡）→ 新山古墳→ 黒石１０号墓→（下田東遺跡）→上牧銅鐸出土地→九渡古墳群（３号墳）→二上山博物館→下田駅
（　）は、遠望。

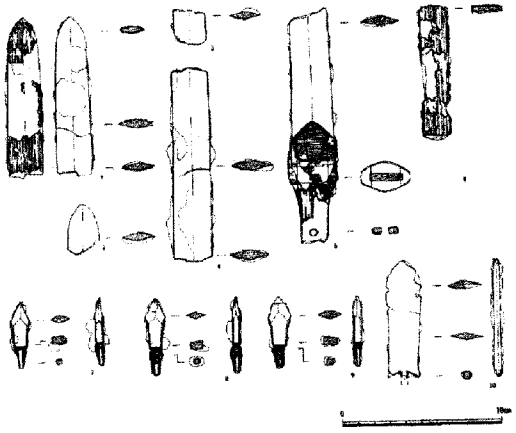
７．その他
(1)　二上山博物館は、入館料２００円が必要です。
(2)　遺跡の案内は、「からこかぎ」第１７号に掲載しています。
(3)　今回は、周辺に弥生関連遺跡は、余りありません。

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会(事務局)
〒636-0247　奈良県磯城郡田原本町阪手 233-1
田原本青垣生涯学習センター　唐古・鍵考古学ミュージアム内
TEL:090-9257-3688　Email:karakokagijimukyoku@swan.ocn.ne.jp

# 第20回 弥生ウォーク 行 程 図





上牧九渡３号墳（弥生墳丘墓）出土銅鏡と鉄器類